

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月28日

協議会名: 紀の川市地域公共交通活性化再生協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
和歌山バス那賀株	(粉河那賀路線) 上名手打田コースA 名手駅前～紀の川市役所(経由: 打田駅ほか)の運行	・市内高校へMM(時刻表配布等)実施継続。 ・令和3年10月1日に網形成計画に基づくダイヤ改正を実施するにあたり、ダイヤ改正後の路線・ダイヤを掲載した公共交通ガイドブックを作成し、紀の川市広報紙9月号に同封。併せて10月から使用できる無料乗車券を掲載し、今後の利用促進に努めた。 ・令和3年5月からGoogle マップへ地域巡回バスの運行情報を掲載を開始し、情報の発信に努めた。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 粉河那賀路線では、年間利用者数目標を14,947人としていたが、実績は10,078人であった。	新型コロナウイルスの影響で利用者数が前年比の約82.5%に減少した。網形成計画に基づき令和3年10月にダイヤを改正し、試行運行を開始した。今後、利用状況調査等を行うことで改正の効果を分析し、本格運行時に反映させることで、持続可能な地域公共交通網の形成を目指すとともに、可能な範囲で利便性の維持・向上に努める。
和歌山バス那賀株	(粉河那賀路線) 川原竜門コース 紀の川市那賀支所～紀の川市役所(経由: 粉河駅ほか)の運行	・市内高校へMM(時刻表配布等)実施継続。 ・令和3年10月1日に網形成計画に基づくダイヤ改正を実施するにあたり、ダイヤ改正後の路線・ダイヤを掲載した公共交通ガイドブックを作成し、紀の川市広報紙9月号に同封。併せて10月から使用できる無料乗車券を掲載し、今後の利用促進に努めた。 ・令和3年5月からGoogle マップへ地域巡回バスの運行情報を掲載を開始し、情報の発信に努めた。	A 同上	B 同上	同上
和歌山バス那賀株	(桃山路線) 細野貴志川コース 紀の川市役所～垣内(経由: 貴志駅ほか)の運行 ※車両減価償却費等国庫補助金交付路線	・市内高校へMM(時刻表配布等)実施継続。 ・令和3年10月1日に網形成計画に基づくダイヤ改正を実施するにあたり、ダイヤ改正後の路線・ダイヤを掲載した公共交通ガイドブックを作成し、紀の川市広報紙9月号に同封。併せて10月から使用できる無料乗車券を掲載し、今後の利用促進に努めた。 ・令和3年5月からGoogle マップへ地域巡回バスの運行情報を掲載を開始し、情報の発信に努めた。	A 同上	B 桃山路線では、年間利用者数目標を11,603人としていたが、実績は8,843人であった。	新型コロナウイルスの影響で利用者数が前年比の約90.4%に減少した。網形成計画に基づき令和3年10月にダイヤを改正し、試行運行を開始した。今後、利用状況調査等を行うことで改正の効果を分析し、本格運行時に反映させることで、持続可能な地域公共交通網の形成を目指すとともに、可能な範囲で利便性の維持・向上に努める。
和歌山バス那賀株	(桃山路線) 桃山鞆淵コース 紀の川市役所～下志賀(経由: 和田ほか)の運行 ※車両減価償却費等国庫補助金交付路線	・市内高校へMM(時刻表配布等)実施継続。 ・令和3年10月1日に網形成計画に基づくダイヤ改正を実施するにあたり、ダイヤ改正後の路線・ダイヤを掲載した公共交通ガイドブックを作成し、紀の川市広報紙9月号に同封。併せて10月から使用できる無料乗車券を掲載し、今後の利用促進に努めた。 ・令和3年5月からGoogle マップへ地域巡回バスの運行情報を掲載を開始し、情報の発信に努めた。	A 同上	B 同上	同上

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和4年1月28日

協議会名:	紀の川市地域公共交通活性化再生協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>平成17年11月7日に旧那賀郡内の5町(打田町、粉河町、那賀町、桃山町、貴志川町)が合併し、紀の川市が誕生しました。この合併により市の面積が228.21 Km<sup>2</sup>と拡大し、高齢者や障がい者などの交通弱者にとって市域内の移動が困難となったこと、また公共交通事業者の不採算バス路線撤退等による公共交通空白地域の増加等の問題も生じていたことから、「交通弱者の日常的な移動手段の確保」、「公共交通空白地域の解消」を目的とし、地域巡回バスの運行を開始しました。</p> <p>現在では、この地域巡回バス路線の認知度も、高齢者の方々をはじめとして、徐々に浸透してきているところです。また高齢化、人口減少対策として、市全体で定住施策を推進している中で、公共交通の充実も定住条件の一つと考えられます。</p> <p>以上のことから、引き続き、行政・市民・事業者等が協力し一体となって、この地域巡回バスの路線確保、サービス提供の維持を行っていきたいと考えております。</p>